

「空気環境の維持」

大手空調専門企業のテレビ広告。「空気にできることはもっとある。ダイキンは空気に見えない可能性を見つめています。たとえば酸素を増やすと体力が回復する。二酸化炭素を減らして集中力を上げる。さらに、気流、気圧、湿度もコントロールすることで、新たな価値を創り出しています」と伝えている。冬は暖房をつけ、室温には高める。その分、酸素が不足し、二酸化炭素濃度が高まる可能性がある。

「勉強したくてもなかなか集中できない」「理由は分からないけど何故か頭がぼーっとする」というのも、もしかしたら空気の影響かもしれない。

二酸化炭素は、空気中に存在することから、少量であれば人体に影響は見られない。しかし、濃度が高くなると、倦怠感、頭痛、耳鳴り等の症状を訴える者が多くなる。そのため、室内の二酸化炭素濃度は全般的な室内空気汚染を評価する1つの指標としても用いられるという。本校の建物は、換気機能が高く、常時換気するようになっている。新型コロナウイルス対策としても換気することは有効だ。エネルギー消費を節約する観点から、過度に換気する必要はないものの、衛生的な空気環境を維持することが大切だ。

また、東京の冬は、空気が乾燥する。今年になってから乾燥注意報が連日出ている。乾燥注意報は地域によって基準が異なるが、東京では一日の中で最も低い湿度が25%以下、木材の乾燥度合いが50%以下の時に発令される。火災が発生しやすく、健康にも影響する。よく喉がイガイガするといった不快感をもつことがあるが、これは室内の空気が乾燥することで起きる弊害である。外気が乾燥しているので、換気しても逆効果になってしまう。また、冬はインフルエンザが猛威を振るう。このウイルスは湿度が適度な状態でないと、動きが活発になる。乾燥している状態は感染の可能性を高くする。その対策として、加湿器等により水蒸気量を増やすことが効果的だ。本校では年明けから大型の加湿器を作動させることとした。毎日、水を補給する作業を保健委員会にお願いする。

1月10日 校長 鈴木 幸雄

◆問題 みかんを生徒に配るのに、一人3個ずつ配るとみかんは15個余り、一人4個ずつ配ると10個不足するといえます。生徒の人数を求めるのに、方程式を使う場合と、使わない場合で答えを求めてみてください。